

報道関係者各位

株式会社コンピュータ・ニュース社

〒113-0033 東京都文京区本郷 3-18-14本郷ダイヤビル6F

TEL 03-4236-5200 FAX 03-3818-3006

本件に関するお問い合わせは下記をお願いします。

BCN総研 赤島 誠

<http://www.computernews.com/marketview>

## デジタル機器は、自宅での 情報収集の「生活必需品」に

株式会社コンピュータ・ニュース社（本社：東京都文京区、代表取締役社長 奥田喜久男）の市場調査部門であるBCN総研がホームページ上で行ったアンケート調査の結果、自宅で情報を収集するにあたり、PCユーザーのほとんどがデジタル機器を利用していることが明らかとなった。

\*BCN総研は、東名阪のパソコン大手販売会社12社（エイデン、大塚商会＝ランド、グッドウィル、コンプ100満ボルト、コンプマート、CSKエレクトロニクス＝T・ZONE、上新電機、ソフマップ、九十九電機、ニノミヤ、ビックビーカン、ワンダーコーポレーション＝50音順）522店舗（2002年04月01日現在）の日次販売データをデイリーで収集し配信するBCNランキングを公表しています。

BCN総研がPCユーザーを対象にホームページ上で行ったアンケート調査の結果、「自宅での生活の様々な場面においてデジタル機器を利用する割合」との質問で、「情報収集」や「手紙や年賀状の作成」において、「デジタル機器の利用が多い」と回答したユーザーが過半数を超えることがわかった（図1）。特に、情報収集では「デジタル機器の利用が多い」と「デジタル機器と他の手段とも同じくらい」の回答をあわせると、ほとんどのPCユーザーがデジタル機器を利用していることになる。

一方、「売買」や「教育」においては、「デジタル機器以外の利用が中心」とする回答が6割であった。ただし、「買い物は実店舗に行くが、事前にインターネットによる情報収集を行ってから」などのように、間接的にデジタル機器を利用したケースも考えられる。

なお、「自宅におけるデジタル機器の利用状況は、わが国における一般的な家庭と比べて、進んでいると思われませんか」との質問に対する回答から、デジタル機器の利用状況が「他の家庭に比べ先進的」か「一般家庭並み」か、に分けてみると、「先進的」ユーザーでは、総じてデジタル機器の浸透度が高いことがわかる（図2）。「一般家庭並み」ユーザーでも、「情報収集」や「手紙や年賀状の作成」などの項目における浸透度は高い（図3）。デジタル機器は生活の一部では既に浸透しており、特に「情報収集」においては生活必需品として、その役割を果たしているといえよう。

### 調査概要

調査期間：2002年3月8日～3月12日、調査方法：弊社ホームページ（「WebBCN」）でのアンケート

有効回答：2,642件、男性58.6% 女性41.4%

デジタル機器の利用状況（一般家庭と比較して）：「かなり進んでいる」8.6%、「やや進んでいる」42.7%、「一般家庭並み」38.4%、「やや遅れている」9.0%、「かなり遅れている」1.3%

\* 本リリースについて、今後メールでの配信をご希望の方がいらっしゃれば、対応させていただきます。

赤島までご連絡下さい（[akashima@bcn.co.jp](mailto:akashima@bcn.co.jp)）。

図1 デジタル機器の浸透度（全体）

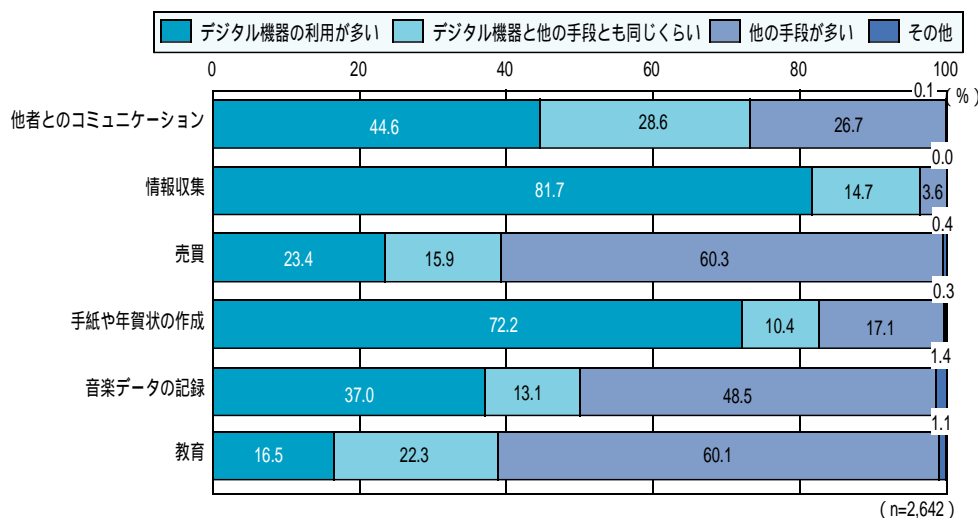


図2 デジタル機器の浸透度（デジタル機器の利用が「他の家庭に比べ先進的」）

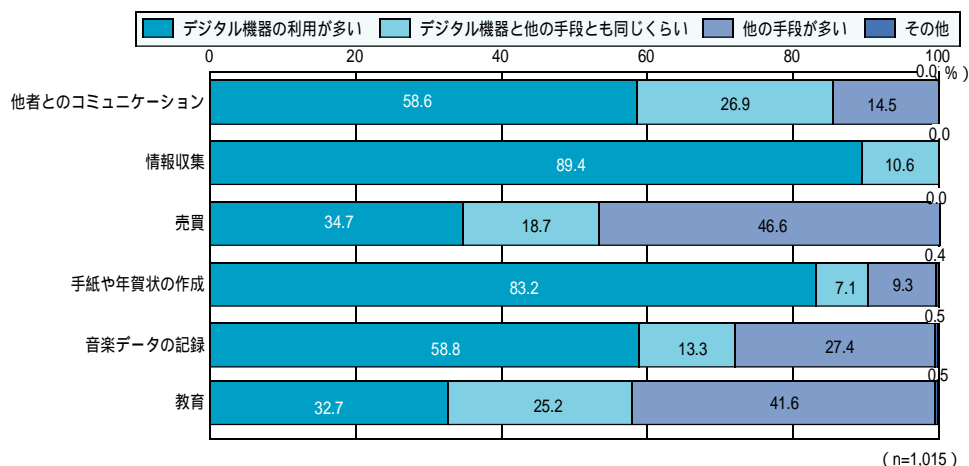


図3 デジタル機器の浸透度（デジタル機器の利用が「一般家庭なみ」）

